工学部教務委員長
皆川　勝（都市基盤工学科）

2003 年度工学部教務委員会の運営・活動方針（確定版）

工学部教務委員長
皆川　勝

１．　工学部教務委員会の役割

工学部教務委員会は、「工学部長の諮問に応じ、工学部の教育課程の編成及び履修指導その他教務に関して研究協議するとともに、必要事項を建議することを目的と」しており、建議された事項のなかの、学部長が必要と判断した事項が、教授会に諮られることになります。また案件によっては、委員会が答申し工学部長の判断で同時に実施に移されることになります。その間、主任教授会などの他の委員会組織において議題として審議されることは通常ありません。これは、本委員会委員を原則教授としていることから、相応の責任ある対処がなされるとの判断からであると考えます。ご出席の助教授・講師各位につきましても、同等の対処をいただける方々が委員となっていただいていると考えております。

２．　委員への要望

（１）教務委員の役割

各学科等の教務委員には、①学科等に関連する事項を審議する場合に、もっとも豊富な関連情報をお持ちの方として出席する、②学科等の教職員に情報を提供したり、逆に教職員からの意見を聴取し、その結果を委員会に報告するという二つの役割があります。その様な役割を担うことは当然として、本来的には、全学部的あるいは場合によっては全学的な見地から活動に関与することが求められていると考えます。なにとぞ、そのような見地から積極的な活動を期待いたします。また、従来、教務委員会で審議中の事項について、学科の意見を聴取する役割が重視されてきましたが、それに加えて、全学的あるいは全学部的な見地から実現したい事項について、各学科等の教職員にその趣旨を説明し、理解とそれへの協力を要請し、説得してゆく役割もお願いしたいと考えています。

（２）学科への報告・意見聴取

後述のように、通常、学科の意見を求める場合には約一ヶ月の猶予期間がとれるよう配慮したいと考えております。従いまして、学科教室会議への報告と共に意見聴取・意見のとりまとめが求められた場合には、約一ヵ月後の委員会に、求められた意見などを書面でご提出いただくよう、お願いいたします。口頭の報告ですと、あいまいな部分が残り、また主観によってとり方に相違が生じ、後々の議論の弊害になると考えます。この対応がなされない場合には、学科等からの意見は特にないものとして取り扱うことがあることをご承知おきください。

（３）教育研究センター各部門委員の役割

当委員会の構成員には、教育研究センターの各部門より１名ずつの委員が含まれております。この趣旨は、当該分野の直接的にかかわるカリキュラム等の審議に際して、当該部門の教員の存在は不可欠であるとの認識によるものと考えております。一方、学部内においては、教育研究センターの位置づけは学科相当であります。したがいまして、教育研究センター選出の各委員におかれましては、特に学科等としての意見が求められた場合、極力教育研究センターとしての意見を提示できるよう、ご尽力をお願い申し上げます。このことは、教育研究センターがその規程で謳われている本来の目的に沿った活動をよりいっそう進展しやすくするためのお願いとお考えいただきたいと思います。同センターの役割を軽視してのお願いではないことをご理解ください。このお願いの趣旨については教育研究センター長にご説明しました。センター長にはご理解をいただいていると考えています。

（４）審議事項の委員長への事前報告

教務委員会での審議あるいは報告を要すると思われる事項については、事前に委員長へお届けいただきたくお願い申し上げます。各委員から、積極的な議題等の提案を期待します。

（５）欠席の場合の措置

欠席の折には極力代理出席者をたてていただくようお願いいたします。

３．　会議の進め方

（１）　月２回の委員会の特徴付けによる、WG を中心とした審議と成果提示の迅速化

従来、月１回の開催であったものが、前々教務委員長時代に、月２回の開催となりました。これは、工学部として新構想の建議と実施を推進するための処置であったと理解しています。そこで、本年度より、以下のように、月２回の委員会を特徴づけしたいと思います。

- 第１水曜日：学科等からの提案事項など、WG 活動に直接関連しない議題の審議
- 第３水曜日：WG での検討事項に関連する審議・フリーディスカッション

いずれの場合にも、同一の議題は原則として約一ヶ月後の委員会で継続審議されます。このことにより、学科等あるいは教職員からの意見聴取などの情報収集や審議そのものに緊張感を与え、WG 活動からのこれまで以上の成果の出力や、基本的な戦略の構築とそれにもとづく施策実現の可能性が高まると考えます。

（２）　多数決によらない議決

本委員会での議決は多数決によらないことを、申し合わせたいと存じます。一方、すべての学科等あるいはその委員に拒否権が与えられているとは考えておりません。意見の一致を得るために練強く検討をすることが求められていると考えます。なお、このことはこれまでの委員会でも認識されてきたものと思います。

４．　主な検討課題と WG 構成案

（１）　学習・教育支援 WG：学習支援室の実効性の検証と改革、その他の支援策検討

自主的な学習を促進する方策と共に自学自習を保証するシステムの構築を実現したい。例えば、外国語教室版自学自習保証システムを他の科目へ拡張する方策を検討することはどうか。図書館は学習図書館と位置づけられており、自学自習やグループ学習のための空間が提供される見込みである。

（２）　次期カリキュラム WG：2006 年度までに実施可能なモデルカリキュラムの提案

学科等における教育システム改善の努力に配慮しつつ、高校のカリキュラム改定、18 歳人口減少に対応した、工学部としてのモデルカリキュラムを構築する。モデルカリキュラムを学科教育課程へ適用する具体的方法を検討する。遅くとも、2006 年度からの実施は至上命令であろう。教育研究連携会議（仮称）の設置を実現するための活動を含む。

（３）　FD 活動の強化 WG：教育実践研究会実施、教育年報編集

いずれも時期が限定された活動であり、FD 活動強化策の一部とみなし一本化する。教員の教育力向上という狭義の FD の具体策検討、大学教育システム全体の品質改善という広義の FD に関連する戦略・戦術の立案等を含む。

（４）　大学院との連携 WG：学部・大学院一貫教育に配慮した教育システムの実現策検討

工学研教務委員会と合同 WG を発足させ、2004 年度実施を目指す。

（５）　JABEE 対応 WG：発展的に廃止

情報が共有できないレベルでの各委員への WG による啓蒙活動には限界がある。カリキュラムが改定され、受審の準備や実施時期に入っている。委員長として JABEE 委員会（仮称）の設置を工学部長に要請した。

（６）　教育年報 WG：FD 活動の強化 WG に吸収して廃止

（７）　文化講演会 WG：生涯学習センター運営委員を委員長とする組織で対応、WG は廃止

教務委員会から数名の委員に参画していただく。現文化講演会運営委員長が、同センター運営委員として、引き続いて委員長としてご尽力いただくことについて、同センター長のご理解をいただいている。規程上問題あるか確認の必要がある。

（８）　企画 WG：全学部的な教務に関わる戦略や基本的方向性の検討

その方向での新たな施策の実施に向けた方策まで検討し、その実現を目指す。

いずれの WG についても、活動の範囲は上記に限定されたものではなく、本学の特徴を踏まえたよりよい教育システムに関する、戦略・基本的方向性並びに具体的施策の検討を含みますが、時間的制約もあり、優先度を設定して重点検討事項を決定するべきと考えます。

５．　WG メンバー（50 音順）

（１）　学習・教育支援 WG：勝又、金澤、佐藤（英）、安井
（２）　次期カリキュラム WG：井上、富田、中村（正）、秋谷
（３）　FD 活動の強化 WG：土井、松本、森、渡辺(一)（椿原）
（４）　大学院との連携 WG：岡山、鈴木（章）、宮内、村上
（５）　企画 WG：勝又、田口、森、吉田（真）、菅沼（幹事として）

****は WG 主査

６．　その他の担当

（１）　文化講演会担当：吉田（真）（生涯学習センター運営委員）、岡山、土井
（２）　情報処理センター運営委員会出席者：井上

（補足）

委員の交代（任期は 2004 年 3 月 31 日まで）

電気電子情報工学科：小野→田口
電子通信工学科：徳田→秋谷（前任者の専攻主任就任に伴う。）
都市基盤工学科：皆川→村上（前任者の教務委員長就任に伴う。）
教育研究センター（体育部門）：岩嶋→渡辺（一）（前任者の海外留学に伴う。学生部委員との兼務であるため、椿原助手の代理出席を認める。）
情報処理センター：松山→安井（前任者の情報処理センター長就任に伴う。）

以　　上